

第4回 一般廃棄物最終処分場の候補地選定に係る住民説明会概要

1 日時 令和7年5月29日（木）19:00～20:30

2 場所 愛島公民館 会議室1・2

3 参加者

(1) 市民10名

(2) 小松生活経済部長、朽木環境共創課長、石川環境共創課長補佐、小山主事、石川主事

4 説明事項

(1) 名取市のごみ処理の現状について

(2) 今回の選定における基本的な考え方

(3) これまでの選定経過について

(4) 候補予定区域について

(5) 詳細調査の評価項目について

(6) 今後のスケジュールについて

<質疑応答（要約）>

(1) 最終処分場の概要、選定過程などに関する質疑

Q1 資料に来年の3月までに市で候補地を選定するとあるが、候補地を1箇所に絞りこむと捉えてよいのか。

A1 あくまで予定だが、令和7年度末までに市として1箇所に選定していく。ただし、地域の皆様方へご説明しご理解をいただきながら進めていくため、状況によっては後ろにずれる可能性もありえる。

Q2 クローズド方式は、評価の前提になっているのか。

A2 評価の前提である。

Q3 選定委員会は名取市の委員会なのか。また、選定委員会とコンサルタントの関連性はどうか。

A3 選定委員会は名取市の委員会である。詳細調査のコンサルタントへの委託は組合の業務である。コンサルタントは選定委員会にオブザーバーとして出席しており、専門的・技術的な説明をお願いしている。

- Q 4 山間部にクローズド方式というのは、どれくらい適正度があるのか。また、費用面について場所によってどれくらい変わるのか。
- A 4 地形が平坦ではないため、技術的な改良等が必要になる可能性があるが、建設は可能である。費用面については、現段階で一概に申し上げられないため、具体的な数字の回答は差し控えさせていただくが、オープン型と比較すると加算はされる。

(2) 愛島地区が候補予定区域になっていることなどに関する質疑、ご意見

- Q 1 昨年 11 月の新聞報道にあった市長のコメントで「当時とは前提が変わっているの
で、愛島地区も外さない」というようなことが載っていたが、その前提とはどうい
うことを意味しているのか。
- A 1 趣旨として、現在は焼却灰の飛散を防ぐ屋根を整備し、処理水も下水道処理または
無放流とするクローズド型が主流となっており、オープン型を主流としていた当時
から技術の進歩、構造が変わってきているという認識を示したもの。
- Q 2 前提が変わっている旨を、市長から地域住民に説明するような対応は設けたのか。
「前提が変わっています」が一人歩きしては、昔の約束と違うのではとしか受け取
れない。
- A 2 これまでの住民説明会では、市長からそういった説明はしていなかった。今後、市
長が出席して皆様方にご説明をする機会を設ける。住民説明会を重ねていき、丁寧
な説明をさせていただく。
- Q 3 過去の約束事がありながら、なぜ愛島を候補地として選定をしているのか。
- A 3 改めて市内全域を対象として選定することが基本方針となっていることから、愛島
を含めた形で適地の選定をしている。
- Q 4 2市2町内でリスクの分散をするのであれば、名取市内でもリスクの分散をしなけ
ればならない。ダブルスタンダードではないか。
- A 4 長年に亘り特定の地域に偏っており、皆様にご心配等かけている点については大変
重く受け止めている。ただ、最終処分場を建てられる地域というのは市域の中で限
られており、絞り込みをかける中で、この5箇所が候補予定区域となっている。
- Q 5 市内に適地が少ないという話だったが、約束事を受け止めるのであれば、まず、
愛島以外の2箇所で探すのが基本的な姿勢ではないのか。
- A 5 根本的な部分ではないと思うが、技術的な部分について環境に配慮して建てられる
ところは明らかに変わってきている。市内のどこに選定されたとしても、安心安全
な施設を造るために丁寧な説明をさせていただきたい。

(3) ご意見として承ったもの

- 意見 1 詳細調査は現地に入らないとできないものもあると思う。また、地権者の方々を対象とした説明会も必要不可欠だと考える。
- 回答 1 コンサルタントが現地に入って調査は行う。ただ、ボーリング調査は予定しておらず、文献調査や過去の調査を勘案しながら進めていく。
- 意見 2 浜田委員長の禍根を残す選定はしたくないという発言を重く受け止めてほしい。
- 回答 2 地域の皆様が安心安全に思える施設を整備していくので、そこについての説明は尽くさせていただく。
- 意見 3 前回の候補地域内の動物の調査をして選定していただきたい。
- 回答 3 評価項目が定まっていないところがあり、動植物の調査についても評価の中に入れる形で考えている。
- 意見 4 旧最終処分場の水質の調査結果をまだ出してもらっていない。
- 回答 4 旧最終処分場原水調査を令和元年度以降から再開し、毎年調査をしている。その結果について、先日市のHPに公開した。なお、結果については河川放流することに問題がない水質であることを確認している。
- 意見 5 住民に心配をかけているという話だったが、ダイオキシンなど色々な問題が起きているので、心配をかけたわけではないという認識は持ってほしい。
- 意見 6 過去にごみを埋立っている。既にリスクを負っているということをつかかった上で選定していただきたい。技術が新しくなったとかの問題ではない。
- 意見 7 過去の経緯も評価項目として考えるべきなのではないか。
- 意見 8 基本的な考え方という理由付けで、約束事を市側が勝手に白紙にしていいのかという感情があり、釈然としないし、話は進まないと思う。当時の約束事は軽々しいものではない。愛島地区の心情よりも処分場の選定に重きを置いているように感じる。
- 意見 9 いくら科学的なこと、合理的なことを言っても話は進まない。愛島地区でもクローズド型ならいいのではないのかという意見もあるので、理屈の問題ではなく、住民感情にきちんと向き合えば、候補地が決まるかもしれない。